

オーク目黒

oak meguro

No. 03-044-2016作成

新築
事務所

| | | | |
|-------|----------------------------------|--|---|
| 発注者 | 株式会社 大林組 | カテゴリー | A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB |
| 設計・監理 | 株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION | E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携 | |
| 施工 | 株式会社 大林組 | I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他 | |

合理性を追求した中規模モデルオフィス

免震オフィス

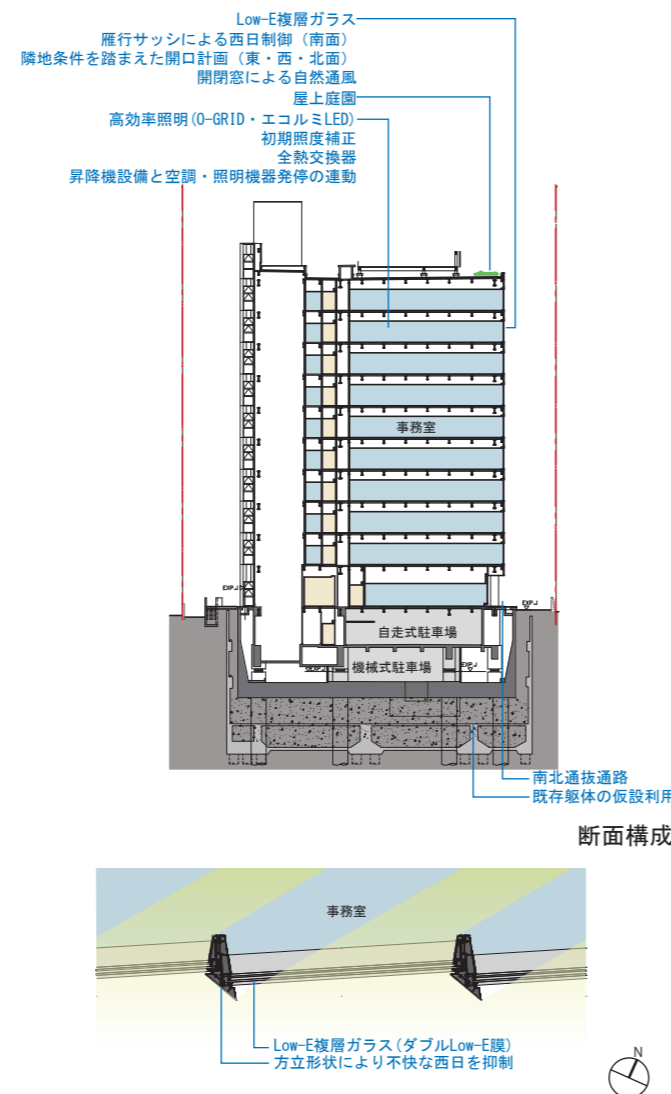
不整形かつ高低差のある敷地に基準階専有部約1,720㎡（約520坪）、スパン20m超のオフィス空間を確保した。3分割想定の高自由度の高いフロアプランに加え、免震構造の採用、各階増設用設備置場と共に、発電機増設スペースを設けることで入居テナントのBCPへの要望に十分応えられるスペックを与えている。

省エネ要素技術の採用・モジュールデザイン

事務室内は可変性・更新性に富む600角グリッド省エネシステム天井（大林組独自技術：0-GRID）を採用し、一灯型高効率照明器具（エコルミLED）により消費電力の削減を図っている。事務所以外の共用部についてもモジュールを追及することで、緊張感あるデザインを展開すると共に、歩留まりの良い施工により廃棄物の抑制を図っている。



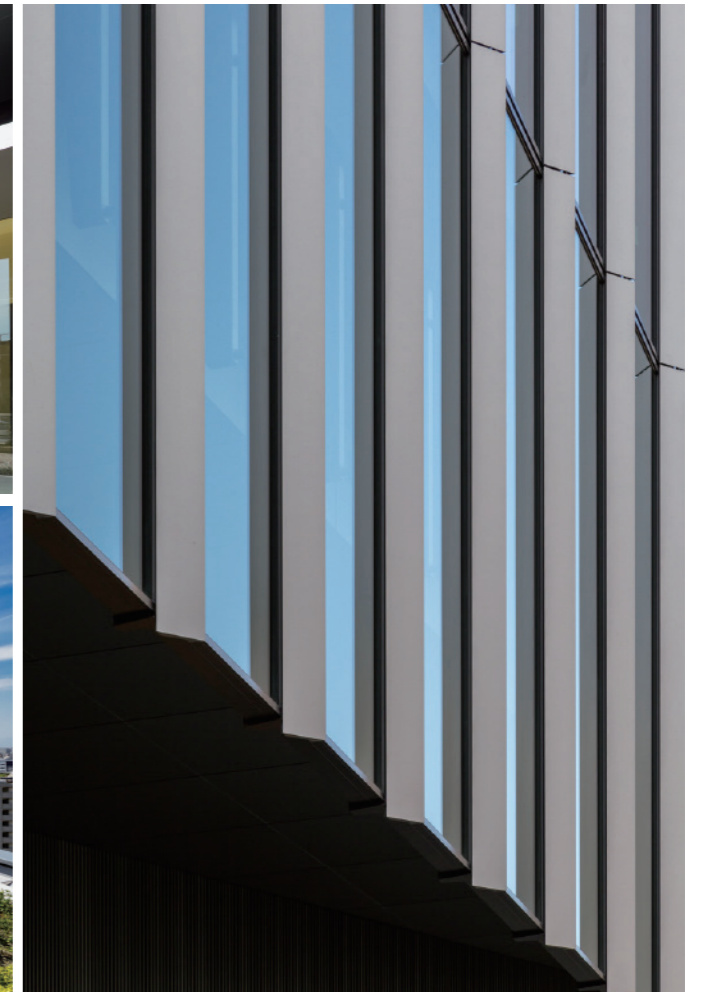
南側外観



南面カーテンウォール



上：壁面緑化により来訪者を迎えるエントランス
下：屋上庭園



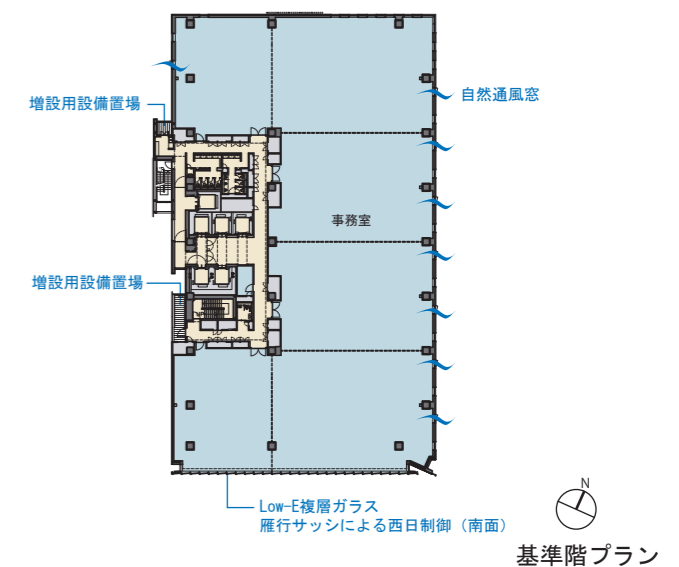
西日抑制に貢献する雁行カーテンウォール

雁行カーテンウォールによる日射抑制

南面のカーテンウォールは日射抑制のためLow-Eガラス（ダブルLow-E膜製品）を採用した。わずかに東向きに振ることで縦の方立フィンと共に不快な西日の抑制に貢献している。隣地に面する東面・北面については単窓とすることで熱性能の向上を図り、一部を開閉可能な窓とすることで、万が一エネルギー供給が途絶えた際もある程度の室内環境の調整が可能となるよう配慮している。

屋上庭園・南北貫通路

計画地北側には東京都庭園美術館、自然教育園の豊かな緑が広がる。敷地周辺との緑の連続性に配慮し北側外構にまとまった緑地を確保し、北側屋上には豊かな眺望を享受できる庭園を計画した。また、計画地の特性である南北に都道に接する敷地条件より、東側外構に近隣住民も利用可能な通り抜け通路を整備し、地域の利便性の向上にも配慮している。



設計担当者

統括：小林浩／建築：伊藤泰、荒井庸行、瀬戸裕紀、佐藤剛、安藤陸
／構造：新井努、大高秀一、元木敬治、設備／一橋克美、小島義包、木村剛、石橋美知雄、家田秀和

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（免震構造）
- Q2. 3. 対応性・更新性（階高のゆとり・荷重のゆとり、システム天井・将来用スペース）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（南北通り抜け通路、ピロティ）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（システム天井用高効率照明）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（既存躯体利用・リサイクル資材の使用）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（屋上緑化・透水性舗装）

| | | |
|-------|----------------------|-----------------|
| 建物データ | 省エネルギー性能 | CASBEE評価 |
| 所在地 | BPI | Aランク |
| 竣工年 | BEI（通常の計算法） | BEE=2.2 |
| 敷地面積 | LCCO ₂ 削減 | 2014年度版 自己評価 |
| 延床面積 | | |
| 構造 | | |
| 階数 | | |

